

苫小牧工業高等専門学校

高専通信

National Institute of Technology, Tomakomai College

新年のご挨拶

国際交流

インターンシップ

第4学年工場見学旅行

高専ロボコン2017



vol.147

第四次産業革命時代への高専教育の対応



苫小牧工業高等専門学校 第九代校長

黒川 一哉

私たちが、パソコンに身近に触れることができるようになってまだ35年ほどしか経過していないであろうと思います。さらにそれを使つてのメールや情報収集ができるようになってから25年ほどです。今や、IoT（さらに進んでAI）やAIにまで進み、技術革新は著しいスピードで進んでおり、第四次産業革命時代を迎えていると言われています。このような時代を迎え、10年後には、「現在の職業の多くが自動化される」、「現在の子供たちの60%以上が今は存在しない職業に就く」といった予測がなされています。その予測通り技術革新が急速に進んでいることは報道を通じて実感しており、これまでの第一次から第三次までの産業革命とは異なる変革スピード、極めて大きい社会への影響、Bricks to Less（グローバル化）に恐怖感さえ覚えるほどです。

本校においても、工学教育の基本を大事にしつつ時代の変化に対応した教育・人材育成を進めていかなければなりません。このような状況に基づいて一昨年から1学科制に移行しました。初学年時に各種創造教育を通して工学・工業の一端でも実感してもらい、自分の進むべき道を自分で探索してもらいたい。2年次以降では各専門で革新が進んでいるIT対応工学も体得し、これからの産業変化に対応できるようにしてもらいたい。それとともに、分野を問わず今後ますます重要な問題となるサイバーセキュリティに対する高い意識ももってもらいたい。来年度から北海道警察と協定しサイバーセキュリティ人材育成プログラムを実行することになっています。さらに本校ではモンゴルの3高専への協力体制の整備、タイのカセサート大学との学術交流も進めており、学生諸君にはIT社会と連動したグローバル化について深を考えてもらいたい。これらの教育を通して学生自身が自らを成長させる意識を高くもち、社会に貢献できる人材として巣立っていくことを強く願っています。

我が国は明治以来「知・徳・体」の育成を基本とした教育を実践し功を奏してきました。しかし、現在の学校は社会状況の様々な急な変化に対応するのにやっとなかなか三身一体型教育と先進教育とのバランスを保ちながら人材育成をするのが困難になってきています。このような意味で、これまで以上に同窓会、後援会、協力会、地域企業、自治体が協力して有為な人材の育成を考えることが地域発展のためにも必要だと思います。各位におかれましては、本校の教育活動の主旨をご理解いただき、今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

新学生会長の言葉



環境都市工学科4年

作内 響生

こんにちは。新しく学生会長を務めます作内響生です。私からは、学生会について紹介したいと思います。

私たち学生会は主に体育大会や、学校祭などの行事の運営を行っています。中心となることもあれば、補助を行うこともあります。来年度は学生全員が楽しんで快適に活動できることを目標に、今年度から引き継ぐものは引き継ぎ、改善できるものは改善し、新しい試みも積極的に行っていきたいと考えています。

日常的に行っている活動としては、学生の意見や要望の集約です。一年の活動計画や予算を決定する学生総会で集約するほか、評議会や目安箱も用いています。それらの意見を反映するために各種委員会での検討や、校長懇談会を開いています。

詳しい活動内容につきましては本校ホームページ内にあります学生会ホームページをご覧ください。

学生会長として執行部や、各種委員長、他の学生全員と協力しこの学校をより良いものにしていきたいと思っておりますので皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。





機械工学科4年

樋口 達也



新寮長の挨拶

この度新しく蒼冥寮寮長に就任しました、機械工学科四年樋口達也です。現在、蒼冥寮には三百名程度の学生が在籍しており、楽しく共同生活を送っています。蒼冥寮には、全道各地から学生が集まって来ており、ほとんどの人が初対面同士ではありますが、寮祭やスポーツ大会などを通して学科学年分け隔てなく親睦を深めています。また、先輩、後輩とも部活動や寮内の委員会などで、つながることができるので、すぐに馴染むことができます。私は入寮前、二十歳の先輩と一緒に寮に暮らすイメージが全く湧かず、不安でしたが、入寮してみると先輩方は優しく、時に厳しく指導してくれました。特にあいさつについて厳しくしてもらったおかげで、インターンシップなどの際に自然に挨拶ができるようになりました。しかし、近年寮内で元気のある挨拶があまり聞こえなくなっていることをすごく残念に思っています。そこで私は寮長として、この挨拶という伝統を守ることはもちろんのこと、今までの蒼冥寮の長い歴史の中で、受け継がれた伝統の良い点を残し、悪い点を改善していき、住みやすい寮を作っていくために活動していきたいと考えています。しかし、寮を良くしていくためには、私をはじめとする寮生会だけでは気づけない点も多々あるので、できる限り多くの寮生からの意見を集約し、先生方との会議にかけ、寮生活に反映させられるように頑張りたいと思います。暮らしやすい寮を作るために、任期終了まで努力を続けていきたいと考えていますので、これからよろしくお願いします。



機械工学科4年

福元 遥



新寮長の挨拶

この度、新しく楓和寮の寮長になりました、機械工学科4年の福元遥です。

寮というのは、自分を成長させてくれる最高の環境です。周りの人への気遣いや人との関わり方、人と生活していく上で大切な基本的なマナーなど、家には気が付けないことをたくさん学ばせてくれます。私は3年生からの入寮で、さまざまな壁にぶつかりました。辛い思いもたくさんしましたがそのおかげで出会えた人がいて、いろんな感情に触れることができ、今の自分があるんだと思います。

共同生活をしていく中で、皆さんに大切にしてほしいことがあります。それは、自分に関心を持つことです。人と一緒に生活しているとどうしても合う合わないが出てきたり、周りに流されたりすることがきっとあると思います。そういったときは自分を大切にする時間を作ってみてください。常に周りを気にする必要はないんです。自分らしさを見つけてみましょう！

楓和寮の皆さんが今までよりももっと仲良く楽しく過ごせるようにサポートしていくことが、私の、寮長としての目標です。応援よろしくお願いします！



ニュージーランドEIT研修



機械工学科3年 井内 智

EIT 研修ではとても濃い時間を過ごしました。この研修を通して私は、英語の有り難さを痛感しています。私のホームステイ先には、自分の他にも中国人の留学生が滞在していました。彼らと私は同じ留学生という立場もあり、色々なことを話しました。他愛のない話ばかりでしたが、研修の中でも特に楽しい時間でした。ニュージーランド人のホストファミリーと話すことも、初めての体験でしたが、留学生同士での交流はさらに新鮮でした。英語が国際的な言語だと肌で感じられた出来事で、今でも印象に残っています。はじめは困惑すること多かった英会話ですが、終わるころにはまだ続けたいとも思っています。



電気電子工学科3年 餅田 湖

ニュージーランドに行く前は不安なことばかりでしたが、実際に行ってみると周りの人に助けられながらも、とても貴重な2週間を過ごすことができました。語学研修や化学実験、ホームステイなどで様々なことを学びましたが、「積極的に話しかける」ことが最も大事なことで改めて実感しました。自分からコミュニケーションを取りに行くことで、たくさんの友達を作ることもできました。また、授業も普段学校で受けているものとは全く違った雰囲気、様々な国の学生と一緒に楽しく英語を学びました。僕はこの研修を通して英語に対する意識の持ち方が変わり、「もっと英会話をできるようにになりたい!」と思うようになりました。どんなことでも体験しないと成長できないので、少しでも興味がある人は是非この研修に参加すべきだと思います!



情報工学科3年 直井 翔太

私は今回の研修を通じ、海外の方と実際に英語で会話をしたり、授業を受けたりすることによって、自身の英語力を把握し、向上に繋げるための材料を得ることができた。最初は、今まで本格的に英語を使ったことがなく、喋るのもあまり得意ではなかったのも、海外で生活していけるか心配であったが、いざ行ってみると文法がしっかりとしていなくても通じたので助かった。学ぶことは勿論、現地の学生とのゲーム、友人と過ごす放課後、市内の観光などを通し、楽しみながら学ぶこともできた。一方、日本との違いに困惑したり、発音が悪く英語が通じなかったりなど、困ったこともあったが、それらも含め良い経験になったと思う。将来、再び海外に行く時はこの経験を活かしたい。



物質工学科3年 沼田 リコ

ニュージーランド研修を簡単に説明すると英語はもちろん、人として成長できるような研修です。私は研修期間と2つの大会が被ってしまい出場ができなかったのですが、それでも行ってよかったと思います。英語ができるできないは関係ありません!英語ができなくても伝えようとする意志と笑顔があれば絶対に伝わります。ホームステイのこと、学校のこと、不安は沢山あると思いますが大丈夫です!ホストファミリーも学校の友達も皆フレンドリーですぐに打ちとけることができました。一つアドバイスをする、わからないことがあれば1人で解決をするのもいいですがどんどん周りの人に聞いて、積極的になったほうがいいと思います。その方が確実に学び学ぶことも多く、世界が広がります。最後に、私はこの研修を通して本当に沢山のことを学ばせて頂きました。お世話になった関係者の方々と親に感謝します。これからチャンスがある皆さんは行って悪いことはないのこの研修への参加を考えてもらいたいです。



ファーム見学



科学実験



授業風景

今年のニュージーランド EIT 研修は 8 月 25 日から 9 月 10 日の日程で行われました。参加した学生 18 名の中から 6 名と引率の藤田先生に思い出を語ってもらいました。



環境都市工学科3年 高橋 絵巳子

初めての留学で現地の生活や学校に不安は多々ありましたが、親切な人々に囲まれ素敵な時間を過ごすことができました。様々な国の友人ができ、対話から口語的な表現などを学ぶことができました。ホームステイなど普段することのない貴重な経験ができたのも良かったです。現地の学校では実践的な英語表現を学びました。専門的な単語が出てくることがあり理解に苦しむこともありましたが先生やクラスメイトが丁寧に教えてくれました。研修は英語学習に対するモチベーションの向上につながりました。今後もこの気持ちを忘れることなく英語学習に励んでいきたいです。



物質工学科4年 加藤 大雪

研修は4年生が自分一人ということで、現地で英語を話すことよりも周りの人たちと上手くやっていけるかの方が不安でした。しかし、行ってみたらその心配は全くなく、みんなが気さくに話しかけてくれたので、思いきりニュージーランドを楽しむことができました。

しかし、研修中に結膜炎にかかるというハプニングもありました。研修中の多くを結膜炎に感染した状態で過ごすことになりましたが、診察や目薬の購入などドキドキの連続で、ある意味貴重な体験をする事ができました。

ネイピアは自然が豊かでとても良い街でした。山肌は日本のように木々に覆われているのではなく、放牧の為に一面が草原で覆われ、夜には天の川がきれいで、そんなネイピア、そしてニュージーランドが好きになりました！



創造工学科 助教（応用科学・生物系担当）藤田 彩華

成田からオークランドへ向かう飛行機は整備のため1時間遅れで出発しました。1時間も待ちましたが、飛行中も天井から水が滴り（加湿のトラブルで飛行には問題がないとのことでしたが…）、さらには到着遅れのため予定していたオークランドからネーピア行きの便に乗りえないといった、なんとも幸先の悪いスタートとなりました。ですが、学生の皆さんが私よりもしっかり者で、研修中は大きなトラブルもなく引率を終えることができました。2週間という非常に短い期間ではありましたが、学生の成長が感じられ、そのお手伝いできたことを大変嬉しく思います。また、学生の皆さんと楽しい思い出をたくさん作ることができました（学生から私の方がNZ滞在を楽しんでと言われるほど…）。今回、皆さんの引率ができて本当に良かったです。ありがとうございます！



留学生全員と



参加学生全員



EIT正門前

香港 THEi 研修



創造工学科 准教授（総合自然科学系担当） 山下 徹

THEi 研修日記

苫小牧高専では交流協定を結んでいる香港の学士課程教育機関である「香港高等科技教育学院 (Technological Higher Education Institute of Hong Kong)」(略して THEi (ジィアイ)) と学生交流事業を行っています。ここ THEi で 2017 年 9 月 3 日から 9 月 12 日まで 9 泊 10 日の研修が行われ、本校の専攻科生 1 名と本科生 3 名が参加しました。また今年初めてこの研修期間中に中国本土へ渡り、1 泊 2 日で日系中国企業の会社訪問も行われました。

本校の学生は THEi の寮に泊まったので毎日の登校時間は徒歩で 5 分ほどでした。寮は新しいエアコン付きの 2 人部屋で日本人の学生同士で泊まりました。9 月初めは香港ではまだ暑く毎日 30 度を越え、湿度も高く、夜もあまり気温が下がらないのでエアコンがあって非常に助かりました。

研修としては以下の 4 つがメインでした。

- (1) THEi の授業を受ける。授業は全て英語で行われていて、その中の大学 1 年の数学と物理の授業を受けました。香港では新学期が 9 月に始まるために両方の授業とも高卒の学生が大学に入学後初めて受ける授業だったこともあり内容は難しくなかったですが英語で授業を受けるという体験は新鮮でした。
- (2) 学外の博物館などを見学する。学外で訪問したのは博物館系が 4 か所、道路建設プロジェクト 1 か所、浄水施設 1 か所の 6 か所で浄水施設以外はすべて英語で説明を受けました。
- (3) 日系中国企業を 1 泊 2 日で訪問する。中国広東省にある日系企業 3 か所を訪問しました。2 つの企業では中国人従業員と一緒に研修も受けました。OPTTEX という会社の寮に泊めて頂きましたが、その夜は中国人従業員と一緒にバーベキューパーティーがあり中国人従業員との交流の場も設けて頂きました。これら日系企業では中国語の環境でしたが、就職先の企業が中国に展開する（している）可能性もあるので参加学生には非常に良い経験になったと思われます。
- (4) 英語でプレゼンをする。最後の日には THEi の先生と学生の前で自己紹介及び今回の研修のまとめをパワーポイントを使って英語で発表しました。

本研修は授業を受けたり、学外見学をしたり、プレゼンしたりと、英語「の」勉強ではなく英語「で」勉強するという非常に有意義な研修でした。また日系中国企業訪問では就職に関する重要な視点を得ることができたようです。参加学生は毎日（研修終了後（～ 17:00））THEi で仲良くなった学生といろいろなところへ遊びに行き楽しんでいました。このように楽しく勉強になる研修旅行にはぜひ多くの皆さんに参加してほしいと思いました。



香港歴史資料館



数学の授業



日系中国企業



プレゼン

インターンシップ

internship



機械工学科 4年
樋口 達也

Q 学科・学年・氏名を教えてください。

機械工学科 4年
樋口 達也

Q インターンシップ先の社名等と所在地を教えてください。

愛知県名古屋市中区
竹田設計工業(株)

Q インターンシップの日数と期間は？

8月21日～9月1日
Q その受け入れ先を選んだ理由は？

設計という職種に興味があり、幅広い分野の設計を行っている企業に行き、自分が何をしたいのか把握したいと考えたからです。

Q 行く前は不安なことがありましたか？

なかなかインターンシップの詳細についての書類が来なかったことです。

Q 受け入れ先でどんな仕事を体験しましたか？

前半は三次元CADの実習を行い、後半はヘリコプターに搭載するための機器収納ラックの設計を行いました。

Q 苦労したことは？

作業班の班長を任されていたのですが、班員の役割分担、スケジュール管理することに苦労しました。

Q 楽しかったことは？

インターンシップで知り合った友達と一緒に名古屋名物を食べに行ったことです。美味しいものばかりでした。

Q 驚いたことは？

製品を設計するときには、非常に多くのことを考慮しなければならぬということが分かり、驚きました。

Q 勉強になったことは？

設計の手順と、強度計算や質量計算の方法について学ぶことができました。

Q インターンシップに行ったら良かったですか？その理由は？

設計という職業について多くのことを学べたことに加え、会社でのマナーについての講習なども行っていたので、今後の就職活動に生かせる知識を得ることができました。

Q インターンシップについての要望は？

1社だけでなく期間内であれば何社でも行けるようにしてほしいと思います。

Q 先輩へのアドバイスは？

インターンシップに行かない理由はありますか。企業によっては、交通費や宿泊費等を手当てしてくれるところも多いので、ぜひ参加してほしいと思います。また、期間については、個人的には10日はほしいと思います。長ければ長いほど得るものも多いので、よく考えて選んでほしいです。



電気電子工学科 4年
古川 光月

Q 学科・学年・氏名を教えてください。

電気電子工学科 4年
古川 光月

Q インターンシップ先の社名等と所在地を教えてください。

神奈川県横浜市
電源開発株式会社 磯子火力発電所

Q インターンシップの日数と期間は？

8月21日～8月25日
Q その受け入れ先を選んだ理由は？

元々電力業界に興味があり、最先端の石炭火力発電所に興味があったからです。

Q 行く前は不安なことがありましたか？

事前に選考があり、結果が発表されるまでとても不安でした。

Q 受け入れ先でどんな仕事を体験しましたか？

石炭火力発電所の設備や保守などについて学んできました。

Q 苦労したことは？

実習先での成果発表です。学んだことを簡潔に発表するのに苦労しました。

Q 楽しかったことは？

社員、本校OBの方と食事をしたことです。仕事への心構え

などをお聞きできました。

Q 驚いたことは？

安全への姿勢です。月に一度の所内全社員による安全確認の朝礼に参加させて頂きました。

Q 勉強になったことは？

石炭火力発電所の運用にあたり必要な多くの環境対策について学びました。

Q インターンシップに行ったら良かったですか？その理由は？

学校の授業では学ぶことが出来ない、より専門的な知識に加えて、職場での雰囲気や働く上での責任について学ぶことが出来、とてもよい学習になりました。

Q インターンシップについての要望は？

実習先では主に座学や設備の見学などが主となっていたので、手を動かして何か製作を行うことが出来たらさらに良かったです。

Q 先輩へのアドバイスは？

4年生の夏休みはとても大事な時期なので、学外実習に参加して職場の雰囲気を知ることと、進路選択の参考材料になると良いと思います。





情報工学科 4年
櫻田 峻也

Q 学科・学年・氏名を教えてください。

情報工学科 4年
櫻田 峻也

Q インターンシップ先の社名等と所在地を教えてください。

株式会社 I・TEC ソリュー
ションズ

北海道苫小牧市表町1丁目1
番11号

Q インターンシップの日
数と期間は？

平成29年8月28日(月)～
平成29年9月1日(金)の実
質5日間

Q その受け入れ先を選んだ
理由は？

所在地が苫小牧市内にあり、
交通面でもあまり困らずに向
かう事が出来たからです

Q 行く前は不安なことがあ
りましたか？

他の人に迷惑をかけてしまう
のではないかと不安でした。

Q 受け入れ先でどんな仕事
を体験しましたか？

スマートフォン向けアプリ
の企画から設計までを行い
ました。

Q 苦労したことは？

アプリを企画するまでの話し
合いで、中々意見がまとまら
なかった事です。

Q 楽しかったことは？

実習期間中に社員の方々と食
食交流会があり、楽しい時間
を過ごす事が出来ました

Q 驚いたことは？

全ての部屋の前に、ICチップ
によるロック解除用の認証セ
ンサーがあり、セキュリティ
に徹底していた事です

Q 勉強になったことは？

アプリをゼロから企画する事
の大変さを学びました。また、
使う人の立場になって設計を
考えることの難しさを実感し
ました。

Q インターンシップに行
ってよかったですか？その
理由は？

学生のうちに実際の業務に触
れる機会はありませんので、
よかったと思います。

Q インターンシップについ
ての要望は？

この5日間でもとても良い経験
ができ、多くの事を学ぶ事が
出来たので特に要望などはあ
りません。

Q 後輩へのアドバイスは？

何事も挑戦です。職場の雰囲
気や仕事の内容を知る事が出
来るので、良い経験になりま
す。就職と進学で悩んでいる
人も参考になるのではないか
と思います。



物質工学科 4年
濱田 燎一

Q 学科・学年・氏名を教え
てください。

物質工学科 4年
濱田 燎一

Q インターンシップ先の
社名等と所在地を教えてください。

三井化学株式会社 市原工場
配属先 エチレンプラント
千葉県市原市

Q インターンシップの日
数と期間は？

8月21日～8月25日

Q その受け入れ先を選んだ
理由は？

将来、就くことになるであろ
うプラント業務に携わりた
かったから。

Q 行く前は不安なことがあ
りましたか？

インターンシップ受け入れ通
知がなかなか来なくて不安で
した。

Q 受け入れ先でどんな仕事
体験をしましたか？

ナフサを加熱分解し、エチレ
ンを生成しているプラントの
見学をしました。

Q 苦労したことは？

相手の声が聞こえないほど機
械音がうるさい中で説明を受
けたこと。

Q 楽しかったことは？

Q 驚いたことは？

工場内に海外から来たお客さ
ん(アライグマ)がいること。

Q 勉強になったことは？

実際に働いている人たちは自分
の仕事に責任を持っているの
だと感じました。

Q インターンシップに行
ってよかったですか？その
理由は？

実際のプラントで行う業務を
知ることができて、働くのが
ますます楽しみになった。自
分に足りない知識を知るきっ
かけになった。

Q インターンシップについ
ての要望は？

実習期間が5日間だと少し短
い感じがしました。10日間ぐ
らいあれば、より様々な体験
ができてよいと思う。

Q 後輩へのアドバイスは？

場所にもよるが、プチ旅行
ができて、単位ももらえ、
新しい出会いがあるため、
行かないのはもったいない
と思います。



環境都市工学科 4年
森下 傑彦

Q 学科・学年・氏名を教え
てください。

環境都市工学科 4年
森下 傑彦

Q インターンシップ先の
社名等と所在地を教えてください。

日本高压コンクリート株式
会社

現場・見晴橋(北見)

Q インターンシップの日
数と期間は？

平成二十九年八月二十一日～
八月二十五日

Q その受け入れ先を選んだ
理由は？

現在学校で勉強していること
がどのように活用されている
のか、またその中でも橋に興
味があつたからです。

Q 行く前は不安なことがあ
りましたか？

知識が十分でない私が、実際
に現場へ行ったら迷惑をかけ
てしまうのではないかととい
う不安がありました。

Q 受け入れ先でどんな仕事
を体験しましたか？

プレストレストコンクリート
の講習、測量練習、生コン
打設。

Q 苦労したことは？

五日間の研修だったため特に
きつかったことはなかった。
Q 楽しかったことは？

現場で働く職人さんがとても
よくしてくれたので、充実し
た研修になった。

Q 驚いたことは？

鋼材にプレストレスをかける
際、一本ずつしっかり計算し
て緊張しているということ。

Q 勉強になったことは？

規模が大きく一つ一つの仕事
にとても責任があるというこ
とを学んだ。

Q インターンシップに行
ってよかったですか？その
理由は？

仕事に対する熱意や職場の雰
囲気を知ることができ自分の
将来の目的を明確にすること
ができてよかったです。

Q インターンシップについ
ての要望は？

特にありません。多くのこと
を学べ、親切にご指導頂いた
ので関係してくださった人に
とても感謝しています。

Q 後輩へのアドバイスは？

インターンシップを通して何
を学ぶか、目的を明確にして
インターンシップ後の未来に
活かせるようにしましょう！





電子生産システム工学専攻1年
峯 康太

Q 学科・学年・氏名を教えてください。

電子・生産システム工学専攻1年

峯 康太

Q インターンシップ先の社名等と所在地を教えてください。

神奈川県横浜市 日本パナソニック株式会社 子工場

Q インターンシップの日数と期間は？

8月21日(月)～8月31日(木)

Q その受け入れ先を選んだ理由は？

専攻科の研究に関連して興味があった南極観測船「しらせ」を建造している企業であるため興味を持ちました。

Q 行く前は不安なことがありましたか？

宿泊施設についてと、猛暑の中での屋外作業に少し不安を抱えていました。

Q 受け入れ先でどんな仕事を体験しましたか？

現場実習と設計実習があり、現場では新造船の電装作業、設計では設計図の誤りを検査する作業を体験しました。

Q 苦労したことは？

気温が36℃を記録した日に、外よりも暑い大型船の中で作業を行っていたため、暑さに

慣れるまでが大変でした。

Q 楽しかったことは？

ものづくりの中でも非常に規模の大きい造船工場で見ることがすべてが興味深く、楽しかったです。

Q 驚いたことは？

1隻の船を建造するのに必要な作業の数と、それを納期までに仕上げるために携わる方々の多さに驚きました。

Q 勉強になったことは？

協力して円滑に仕事を進めるためにはコミュニケーション能力が非常に重要だと教えて頂きました。

Q インターンシップに行つてよかったですか？その理由は？

製造業に携わるという事について学ぶことができ、また、企業の方から長年勤続しているからわかるお話などを聞けて貴重な体験であり、よかったです。

Q インターンシップについての要望は？

要望は特にありません。11日間のインターンシップで多くのことを学ばせて頂きました。

Q 後輩へのアドバイスは？

普通の学校生活では得られないものがたくさんあり、特に交通費などが支給される企業ではノースタックハイリターンだと思えます。ぜひ行くことをお勧めします。



環境システム工学専攻1年
貝沼 元気

Q 学科・学年・氏名を教えてください。

環境システム工学専攻1年

貝沼 元気

Q インターンシップ先の社名等と所在地を教えてください。

新酸素化学株式会社(苫小牧市勇払郡)

Q インターンシップの日数と期間は？

平成29年9月4日から9月8日の5日間

Q その受け入れ先を選んだ理由は？

実際の化学工場ではどのような方法、形態で分析業務が行われているのか興味があったため。

Q 行く前は不安なことがありましたか？

4年次に一度経験しているため、特に不安などは感じませんでした。

Q 苦労したことは？

企業の方々の手厚いサポートもあり、特に苦労したことはありませんでした。

Q 楽しかったことは？

工場内で一番高い塔(酸化塔)の上に登らせていただいたこととです。苫小牧東港を一望でき、とても眺めが良かったのを覚えています。



隣接している企業と積極的に連携を取っているということに驚きました。(例…天然ガスを隣の企業から供給してもらっているなど)

Q 勉強になったことは？

当たり前のことですが、毎日の分析機器の点検作業があつてこそ正確な分析業務につながるということに改めて学ばせていただきました。

Q インターンシップに行つてよかったですか？その理由は？

改めて、働くということがどれだけ大変かを知る機会になったため、今回のインターンシップはとても充実したのになりました。

Q インターンシップについての要望は？

特に意見はありません。インターンシップ担当の事務の方や、受け入れ先の企業の方々に感謝いたします。

Q 後輩へのアドバイスは？

実際に企業へ行き、その業務を体験できる非常に貴重な機会です。本科4年生では任意参加という形をとっていますが、ぜひ参加してみてください。新たな発見がありますよ！

高専祭

高専祭実行委員長 電気電子工学科5年 大迫 幹太



苫小牧高専のみなさん、ならびに関係者のみなさん、高専祭お疲れ様でした。みなさんのおかげで今年も無事高専祭を終えることができました。天候が心配されましたが、みなさんの祈りのおかげもあり両日ともに大きく荒れることなく済みました。また、片付けの日程が変更になるというイレギュラーな事態にも柔軟に対応してくれてありがとうございました。

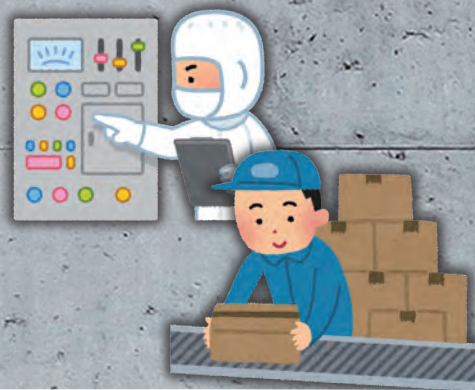
今回のテーマは「FOLLOW ME」というテーマでした。全校のみなさんの投票により決まったテーマでしたが、なかなかイメージのしにくいテーマだったと思います。

このテーマについて私は、一人一人が「最高の高専祭にしてやるから、自分に付いてこい」という姿勢で高専祭に臨んでほしいという意味が込められていると解釈しています。全員がその姿勢でしてくれたかはわかりませんが、委員会をはじめ、ポップソン、ダンス、吹奏楽、屋台、喫茶などといったものすべてが高専祭を作り上げるにあたって不可欠なものでした。そういった意味では文字通り高専祭を引っ張っていたということになり、私のイメージしたテーマ通りの高専祭になってくれたのではないかと思います。

高専祭を終えて反省すべき点はたくさんありますが、みなさん楽しんでくれたので今年も大成功と言っていいでしょう。良かったところは引き継ぎ、悪かったところは直して後輩たちに託し、来年は今年以上に盛り上がる高専祭にしてほしいです。



✈ 第4学年 工場見学旅行



機械工学科



泉 鴻

私たち機械工学科はダイキン工業（株）金岡工場、造幣局本局、サントリースピリッツ（株）大阪工場、東レ（株）滋賀事業場、（株）カネカの5箇所を見学させていただきました。今回の工場見学の目的は「機械工学科っぽくない会社を見学する」ということでした。見学することで、色んな場所に機械工学科が携わっていることを知り、幅の広さを感じました。また機械工学科出身でない人が施設内の機械等の説明をしてくださり専門外の知識も必要だと思いました。道外研修旅行を通して、改めて自分の勉強不足を痛感したと同時に、就職しても勉強はしなければならないということが分かりました。今回学んだことを無駄にせず今後の学生生活、進路に繋いでいきたいです。



電気電子工学科



木村 洸哉

私たち電気電子工学科学生は、10月30日（月）から11月2日（木）までの4日間、電源開発株式会社磯子火力発電所、JX エンジニアリング株式会社・JXTG エネルギー株式会社根岸製油所、株式会社安川電機入間事業所、COM 電子開発株式会社、国立研究開発法人物質・材料研究機構、NTT ドコモ R&D センタを、それぞれ見学させていただきました。北海道ではなかなか見ることのできない大型設備や技術、研究内容を拝見し、見学先の技術者や研究者の方々に直接質問できたことで、より深い専門分野の必要性や重要性について、再認識する機会を得ることができました。また自主研修等の時間では、普段の生活以上に自身の行動に責任を持たなければならないことを実感し、これも貴重な成果となりました。今後、これらの経験を日々の生活や進路選択に生かしていきたいと思います。



情報工学科



本田 汐里

私たち情報工学科はNHK 放送技術研究所、情報通信研究機構小金井本部、NTT 情報ネットワーク総合研究所、丸茂電機株式会社、三菱みなとみらい技術館、新日鉄住金ソリューションズ、富士通株式会社川崎工場の7か所を見学させていただきました。各企業では臨場感のある8K 動画を見せていただき、日本標準時の管理方法、情報通信技術の進歩について知る事ができました。さらに、AI との会話や AR 技術を用いた眼鏡など、私たちの暮らしをより良く効率的にするために技術は進化し続けていることを実感しました。技術者としての仕事内容や、研究内容、実際に勤務されている姿など様々なことを見学・体験させていただき、とても貴重な時間となりました。この見学旅行での経験を今後の進路選択の参考にしていきたいです。



物質工学科



八戸 さくら

私たち物質工学科は10月30日から11月2日までの4日間、花王(株)川崎工場、三井化学(株)市原工場、(株)日本触媒川崎製造所、ユニチカ(株)宇治工場、サントリービール(株)の5つの会社を見学させていただきました。見学先では、原料から製品ができるまでの工程や、大規模な化学プラントを見ることができました。仕事内容は会社ごとに全く異なりましたが、洗剤、フィルム、飲料水等々、形を変え私たちの身近なものとして社会に貢献していること、どの会社においても安全・環境への配慮を徹底していることがわかりました。今回の研修は、これからの進路選択をする上で貴重な経験になりました。最後に、工場見学旅行を行うにあたりお世話になった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



環境都市工学科



佐藤 大生

環境都市工学科は10月31日から11月1日の2日間、NEXCOコミュニケーションプラザ川崎、三井化学市原工場、鹿島建設技術研究所、奥村組による湾岸臨海副都心出口立体化工事現場の4か所の見学に加え、同窓会樽前会による講演会に出席させていただきました。

4か所ではそれぞれインフラ整備、工場の設備建設、土木に関する技術開発、ゼネコンの現場という様々な系統の仕事を見学させていただきました。それぞれタイプが大きく異なる仕事であり、仕事内容やどのような経歴の方々がその企業に入社しているか等も詳しく教えていただき将来の進路についての考え方の視野を広げるよい機会となりました。



保護者懇談会

教務主事補 佐々木 幸司

今年度の保護者懇談会を11月10日(金)に実施しました。実施日以外の懇談も含め711名の保護者が来校され、担任教員との個人懇談が行われました。

お忙しい中ご出席いただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

学業はもちろん様々な学校行事について学生が有益な生活を過ごせるよう、教職員が保護者の皆様と情報を共有し連携していくことが重要であります。懇談会はそのような共有・連携の一助となるものですので、来年度以降に向けてよりよい行事となるようさらなる検討を進めてまいります。

さて、本校は昨年度に改組し創造工学科という名称になりました。この改組の大きな特徴は2年生進級時に5つの専門系(機械、都市・環境、応用化学・生物、電気電子、情報科学・工学)を選択するというものです。

そのため2年生の保護者向けに、ご子息が配属された専門系がどのような勉強をするか、就職や進学状況などを専門系教員から説明する時間を今年度から設けました。さらに4年生の保護者向けとして、今後の就職および進学の手続き等に関する説明がなされました。4年生の保護者向けということでしたが、当日は低学年の保護者の方々も参加されており、やはり進路についての関心が高いことが分かりました。

最後に、保護者の皆様におかれましては、今後とも学校との連携を密にし、本校における教育ならびに学校生活をご支援いただきますよう、ご協力をお願い致します。

高専ロボコン2017北海道地区大会

ロボットテクノロジー部部长 電気電子工学科5年 石黒 絢也

全国の高等専門学校がロボットの製作を通じて技術・アイデアを競う「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」が、今年度は平成29年10月22日（日）に函館アリーナにて北海道地区大会が開催されました。

今年度の競技課題は「大江戸ロボット忍法帳」です。この競技では2台のロボットを用いて競います。敵のロボットや敵の本陣（2本のポールを互いにクロスさせ、×印のように組み立てたもの）に付いた風船を刀（スポンジのような柔らかいもの）や“秘密道具”（大きさや重量などの制限内で自由に作れるもの）で割っていく競技です。風船を割るために用意された規定の布やすりが本番当日に配布され、それを刀や秘密道具に貼り付けます。風船はロボット1台につき5個、本陣に10個付いています。敵のロボット2台の風船すべてを割るか、敵の本陣の風船をすべて割ることで勝利です。3分以内にすべて割れなければ、敵の本陣の風船を多く割ったチームの勝ちです。この競技の見どころは敵・味方合わせて4台のロボット同士が衝突しながら風船を割り合うところだと思います。

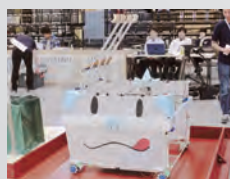
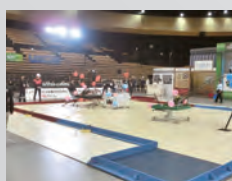
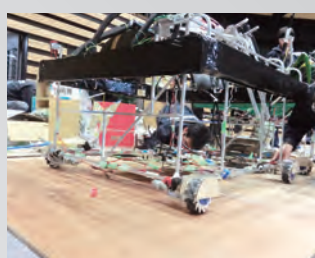
北海道地区大会には本校からA・Bの2チームが出場しました。Aチーム『蟲忍 蟲武者（むしのび むしむしゃ）』は、M4伊東、M4菊地（翔）、A3泉の4年生・3年生のチームです。カマキリとクモをモチーフにしています。カマキリのロボットは釣り竿をエアで伸ばし、クレーンのような機構でカマキリの鎌を模した秘密道具を操ることで敵の風船を割ります。クモのロボットは矢のような秘密道具をエアの圧力でクモの口元から射出して敵の風船を割ります。Bチーム『苦コマイヌ』はM3三河、A3松山、J3石原（颯）の3年生のチームです。一対の狍犬（阿形（あぎょう）と吽形（うんぎょう））をモチーフにしており、両方のロボットがゴムの力で多数のヤスリの玉を敵の本陣に向かって一斉に投げるといいます。

Aチームは初戦、旭川Bとの試合でした。苦小牧Aは試合前日のテストラン（ロボットのリハーサル）で敵の本陣の風船10個すべてを制限時間以内で何度も割り、優勝候補でした。しかし、試合では旭川Bのロボットとの衝突により、カマキリのロボットの非常停止スイッチが敵のロボットに偶然押されてしまいロボットが動かなくなり、健闘むなしく敗退しました。

Bチームは函館Aと戦い、開始数秒後にヤスリ玉を投げ敵の本陣の風船を4つ割り、その後、敵のロボットの侵入を防ぎ3分間耐えて勝利しました。練習通りにうまく競技をこなすことができたゆえの勝利だと思います。しかし準決勝、旭川Aとの戦いで敵の本陣の風船はすぐに割ることができたものの、味方の本陣を守りきることができず敗退しました。

4年連続全国大会出場がかかったこの大会でしたが、全国大会への切符を得ることはできませんでした。特に、Aチームは実力を十分に発揮することができなかったということもあり、悔しい思いをしました。しかし、強く、面白いロボットを製作することができたので、この経験が次に活かされるものであると確信しています。この悔しさをばねに後輩たちには地区大会を優勝して、全国に行ってほしいと思います。

応援してくださったOBや樽前会の方々、家族やこの学校の仲間たち、指導してくださった先生方、体育館の使用に協力してくださった運動部の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。これからも温かい声援をよろしくお願いします。



冬季体育大会

冬季体育大会を終えて

体育委員長 環境都市工学科 5年 齋藤 恭吾

今年度の冬季体育大会は、グラウンドの状態から、そりリレーと綱引きは実施できませんでしたが、大きなけがもなく、無事に終えることができました。総合結果は、優勝：機械工学科三年、準優勝：物質工学科四年、第三位：環境都市工学科四年となりました。

今大会を振り返ってみますと、どの競技も盛り上がっていましたが、特にフットサルとバレーボールが大変盛り上がっていました。フットサルでは、激しく体をぶつけながらもフェアプレーで戦っており、バレーボールは各クラスが一致団結して取り組んでいたのではないかと思います。今体育大会は、そりリレーと綱引きを実施することはできませんでしたが、競技に出場していない人たちも見るだけで楽しめるような体育大会であったと思います。

最後に、今体育大会を開催するにあたって体育委員をはじめ、学生会や先生方、審判の手伝いをしてくれた各部活のご協力、本当にありがとうございました。改善すべき点を改善し、今後の体育大会がよりよくなるように頑張っていきますので、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。



研究室紹介

材料学研究室

創造工学科 機械系 准教授 浅見 廣樹
准教授 高澤 幸治

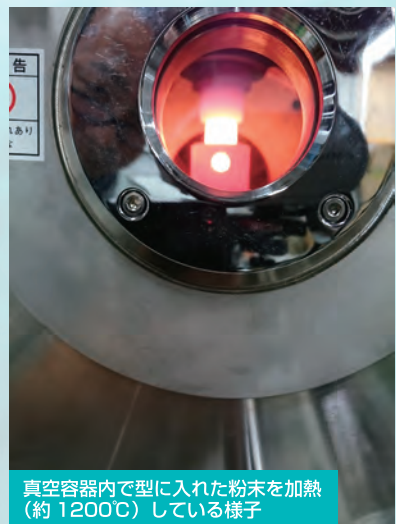
歴史上の様々な科学技術・産業のブレイクスルーは、金属やセラミックス、高分子材料、そしてそれらを組み合わせた複合材料といった「材料」の革新と発展が支えてきました。本校の専門系になぞらえて、ほんの一例をあげれば機械：軽くて強いアルミニウム合金や炭素繊維複合材料→燃費が良く客室内がより快適な旅客機、電気：耐高温腐食セラミックスコーティングやより高温強度に優れた耐熱鋼→より高温・高圧な蒸気を用いた高効率火力発電、化学：腐食に強いステンレス鋼→化学プラントや食品加工機械、情報：低損失（低発熱）な半導体→より高性能なコンピューター、環境都市：高強度スチールワイヤー→巨大な吊り橋…等々です。

このように、世の中に実体として存在するものは全て何らかの材料によって構成されていますので、材料学は機械分野はもちろんのこと、科学・技術・工学のあらゆる分野で大なり小なり必要不可欠な学問です。そこで、機械系においても、本校設立当初（当時は機械工学科）から材料学研究室（名称は変遷がありました）が運営されています。現在は、機械系の2名の教員が携わっており、それぞれの得意な研究分野である金属やセラミックスについて幾つかの研究テーマに取り組んでいます。その中で最も多いテーマが、ものづくりに欠かせない機械加工に用いられる「工具材料」に関するものです。

工具材料とは、ざっくり言うと金属などを高速で削ったり、高圧で押しつぶしたりするための工具のための材料ですので、とにかく硬く（擦り減らない）、強く（壊れない）といった性質が求められます。第2次世界大戦頃から現在に至るまで、その材料として最も多く利用されているのが「超硬合金」です。これは炭化タングステンの微粒子と少量のコバルトを混ぜ合わせた粉末を高温（とはいっても融点よりは低い温度）で加熱して固化させたもので、もともとは希少なダイヤモンド工具の代わりになるものとして、ドイツで発明されたものです。しかし、ご存知のようにタングステンもコバルトもレアメタル（希少金属）であり全世界での採掘可能な埋蔵量は極々わずかで近い将来の供給が不安視されています。さらに、産出国（商売として成り立つ鉱山）が著しく偏在しており、内戦や外交問題で突然供給が止まることもあります（数年前に日本でも問題になりましたね）。

そこで、工具材料を研究している我々としては、タングステンやコバルトを使わずに（すなわち、もっとありふれた元素の組み合わせで）、超硬合金と同等できればそれを超える性能を発揮する材料の開発を目指しています。原料粉末は購入しますが、それ以降のプロセスは学生と協力して研究を進めています。複数種の原料粉末を高エネルギー混合し、その粉末を真空パルス通電加熱することで、熔融させることなく固化させると、まずは何らかの工具材料が誕生します。次に、その材料の微細構造や強さを調べるためにX線や電子顕微鏡、元素濃度分析、硬さ試験、強度試験などを行います。このサイクルを延々と繰り返し、原料、混合、加熱などの様々な条件について、その影響を調べつくし、最高の材料を生み出されることを夢に見て、日々研究に勤しんでいます。

勤しんでいます。と言いましたが、実際には、授業をして、レポートをチェックして、日々学生指導をし、様々な校務分担をこなし、時々困った事案が発生して右往左往する・・・などの合間によりやうく研究ができる。という状況ですので、遅々として進みません。唯一の救いは学生が頑張ってくれることです。大学2年の学齢でここまで出来るのはやはり凄いことだと思います。高専のみならず教育機関の在り方は常に変革を求められますが、学生の能力を引き出すことが我々の使命であることは不変です。この材料学研究室もその一助になればと思っています。



真空容器内で型に入れた粉末を加熱（約1200℃）している様子

科学のとびら



平成 29 年度

「科学のとびらー苦小牧高専実験教室ー」を開催しました

10月14日（土）、15日（日）とイオンモール苦小牧セントラルコートにて、平成29年度「科学のとびらー苦小牧高専実験教室ー」を開催いたしました。

このイベントは、小・中学生をはじめとする地域住民に対して、科学に触れる機会を提供し、その楽しさ、面白さを知ってもらい、理科離れが叫ばれる小・中学生の科学への興味を引き出すことを目的に毎年行われるものです。

14日は教職員、15日は本校サイエンス部の学生を中心に「レーザー加工でネームタグをつくろう」や「光るスライムを作ろう」、「3D-CADと3Dプリンターにチャレンジ」「サンドブラストにチャレンジ」など、様々なテーマのブースを用意し、朝から多くの来場者に恵まれ、2日間でおおよそ500名もの方々にご来場いただきました。

来場者からのアンケートでは「普段はあまりできない体験が出来て良かったです。また参加したいです。」や「物を作ったり、見たりするのが好きなので、今回参加出来てすごく良かったです。」と、大変ご好評をいただきました。科学への興味を引き出す一助になったものと思われま。



教育研究フォーラム

「苦小牧高専 教育・研究フォーラム 2017」を開催しました

12月5日（火）に、グランドホテルニュー王子にて「苦小牧高専 教育・研究フォーラム 2017」を開催いたしました。

本フォーラムは本校協力会会員企業を中心とした地域・社会に向けて、本校が取り組む諸活動の発表や報告等を行い、今後の教育研究活動及び産学連携活動の発展につなげるとともに、本校と地域企業の連携強化を図ることを目的として平成19年度より毎年開催されているものです。

今年度は、基調講演として（株）光合金製作所取締役会長 井上一郎氏をお招きし、「人づくり・ものづくり」と題して、人材育成からものづくりをとりまく経営環境や21世紀に残れる企業づくりと地域づくりについてご講演いただきました。

つづいて、協力会助成事業報告として、本校岩波教授及び研究協力学生より、「ハスカップビネガーを使用した教育実践」と題して、協力会助成金を受けながら安平町とも共同研究しているハスカップビネガーの進捗状況についての報告がありました。ハスカップビネガーは、フォーラム終了後の交流会にて、実際にアイスクリームとフルーツポンチにかけて試食することもでき、「甘酸っぱくて美味しい」「フルーツポンチに特に合う」と、大変好評を博しました。

事業報告後、パネルセッションとして、専攻科1年生の特別研究発表、八田教務主事・村本専攻科長・須田キャリア教育センター長からの創造工学科紹介、岩波教授らからのハスカップビネガーの紹介がありました。

また、同時開催として、今年度のロボコン地区大会での本校出場ロボットの特別展示と資料映像の放映もあり、参加者の目を楽しませていました。

地域社会に対し、普段あまり研究内容を知ってもらう機会のない学生達が、今回このような形で発表することができ、日頃の研究成果を理解していただく大変良い機会になりました。

苦小牧高専 教育・研究フォーラム 2017



（株）光合金製作所 井上氏による基調講演



ハスカップビネガーの研究報告



ロボコン地区大会出場ロボット



専攻科生によるパネルセッション

平成29年度 キャリア教育センター活動報告

キャリア教育センター長 須田 孝徳

キャリア教育センターは平成 25 年 4 月に設置されて以来、キャリア教育プログラムの策定と実施、就職および進学等の進路支援などに取り組んでおります。平成 28 年度に行った学科再編により創造工学科 1 学科体制となり、それに伴う 1 学年の新科目「創造工学Ⅰ」を通年実施しております。この科目のなかで、平成 29 年度におきましても全 9 回のキャリア教育を実施しました。(下表参照) なかでも、学外の講師にご協力いただいた「⑦キャリアパス講演」では 2 名の OB から、「学生時代のこと」「今の仕事に就いた経緯」「働いている中で感じるやりがい」「学校時代にやっておくべきだったこと」「今後の夢や抱負」などについて講演いただきました。また、「⑧ジョブトーク」では苫小牧高専協働会と同窓会「樽前会」のご協力により 25 名の外部講師に来ていただき、学生から直接インタビューを受けるなど、実際の仕事についてご説明いただきました。

平成 29 年度から始まった 2 学年を対象とした「創造工学Ⅱ」においては、「キャリアシンポジウム」としまして、出光興産株式会社北海道製油所 機械課係長 柳川琢也 氏 (1995 情報卒) と株式会社 ASCe (アスク) 代表取締役 後藤亮太 氏 (1988 年旭川高専機械卒) にご講演いただき、その後、キャリア教育センター長をモデレーターとしたトークセッションを行いました。

そのほかの学年におきましても、外部講師により「企業が求める技術系人材」「企業研究の進め方」をテーマとしたキャリアデザイン講話や、「進学ガイダンス」「就職ガイダンス」「履歴書の書き方」などの講演会を多数実施しております。

平成 30 年度から、新科目「創造工学Ⅲ」が始まることから、他のキャリア教育プログラムとの関連を考慮し、より一層工夫していく必要がございます。学外ならびに学内の関連する皆様のさらなるご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

平成29年度「創造工学Ⅰ」におけるキャリア教育

実施日	学習項目	人数等	備 考
4/20	①キャリアガイダンス	50 人×4 回	・キャリアとキャリアデザインの理解 ・高専で実施するキャリア教育の内容
5/18 5/25	②コミュニケーション演習	50 人×4 回	・「聞く」と「聴く」と「訊く」の違い ・ペアワークによる演習の実施
6/8	③将来の夢	100 人×2 回	・あなたの今のキャリアアンカー ・あなたの今のキャリアデザインシート
7/13	④自己理解 ～高専で身につけたい力～	100 人×2 回	・ワークで自分の特徴を知る ・グループワークで確認
8/1	⑤「身近な職業人インタビュー」の夏期課題説明	100 人×2 回	・夏季休業中 (H 29 年 8 月 14 日～9 月 25 日) の宿題説明
10/5	⑥「身近な職業人インタビュー」発表会	40 人×5 教室	・創造工学Ⅰ担当教員 5 名で対応 ・受け入れ先企業 2 社の来訪あり
10/12	⑦キャリアパス講演	100 人×2 回	「樽前会」との共催 (2 名の OB による講演) ・苫小牧市市民生活部国保課 課長 吉田 陽輔 氏 (土木 1994 年卒 21 期生) ・CITYDIGIT 代表 阿部 和法氏 (情報 2001 年卒 7 期)
12/7	⑧「ジョブトーク」	100 人×2 回	・苫小牧高専協働会、同窓会「樽前会」との共催 ・25 名の外部講師とのトークセッション
2/1	⑨ポートフォリオ (振り返り)	100 人×2 回	複数の教員による面談もあり

人事異動

平成 29 年 10 月 1 日付

教育職員

【採 用】

特命教授 (地域共同研究センター) 鴨田 秀一

事務職員・技術職員

【採 用】

事務補佐員 (寮母) 扇柳 友子

非常勤看護師 石山 明子

【復 帰】

学生課 小澤 敦子

(放送大学学園学生課通信指導係)

【出 向】

東京海洋大学学務課教務係 小澤 敦子 (学生課)

平成 29 年 12 月 18 日付

事務職員・技術職員

【採 用】

事務補佐員 (菊田教授研究室) 高橋 薫

【辞 職】

総務課一般職員 工藤 未帆

【雇用期間の満了】

学生課学生係 板林 麻里愛

平成 30 年 1 月 1 日付

教育職員

【昇 任】

創造工学科教授 (情報科学・工学系担当) 三河 佳紀

創造工学科教授 (総合自然科学担当) 山下 徹

創造工学科教授 (総合自然科学担当) 中島 広基

TOPICS

タイの高校生が本校を訪問しました

平成 29 年 12 月 8 日 (金)、タイからの高校生 25 名、引率教員 1 名が本校を訪問しました。

外務省から委託を受けた一般財団法人日本国際協力センター (JICE) が実施する「21 世紀東アジア青少年大交流計画」の招聘事業で来日したもので、今回は苫小牧市が受け入れることになった訪問団に対する学校・学生交流の部分について本校が協力したものです。

当日は黒川校長の挨拶、本校の概要説明の後、学校施設を見学し、英会話の授業へ参加しました。昼食の時間には本校学生と交流の機会を持ち、午後からは特別講義と部活動体験を行いました。最後に応援団よりエールが送られ、本校での交流を終了しました。

また、ASEAN 事務局の H.E. Mr. Vongthep Arthakaivalvatee 事務次長が来校され、校長との懇談、英会話の授業視察を行いました。

今回の交流は、来日した高校生にとっても、本校学生にとっても貴重な体験となったようです。



高専通信 vol.147

CONTENTS

01 第四次産業革命時代への高専教育の対応

校長 黒川 一哉

新学生会長の言葉

02 新寮長の挨拶

03 [国際交流] ニュージーランド EIT 研修

05 [国際交流] 香港 THEi 研修

06 インターンシップ

08 高専祭

09 第4学年工場見学旅行

10 保護者懇談会

11 高専ロボコン 2017 北海道地区大会

12 冬季体育大会／研究室紹介

13 科学のとびら／教育研究フォーラム

14 キャリア教育センター

人事異動／TOPICS

編集後記

今回の高専通信147号では、今年度の夏から現在までの本校の活動をお届けします。本校では国際化教育の一環として、海外の学術機関や企業へ学生を派遣しています。本号に掲載されている香港THEiでの研修では、英語で数学や物理を学ぶ様子などが報告されています。専門分野などでも英語で得られる情報量は、一般に日本語で得られる情報量を圧倒しています。研究の分野でも世界最新の情報は、ほとんど英語で発信されているのではないのでしょうか。また、日本語の限られた文献では理解できなかった事柄や概念が、英語で書かれた文献を通じて初めて理解できることもあります。これは、英語の書き手が多いために、ある事柄を様々な角度から分析・説明されているからだと思われます。学生の皆さんには、専門分野の知見と自分自身の将来の可能性を広げるために、英語を手段として活用できる人材になってもらいたいと願っています。

総務主事補 高橋 労太

2018年3月発行

《高専通信に関するお問い合わせ先》

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係／TEL 0144-67-0213

<http://www.tomakomai-ct.ac.jp/>／メールアドレス pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

